

住友化学 i - 農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第139号 平成28年7月29日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 太田有香
発行責任者 竹迫昭弥

目次

農家さん訪問記 (123) 【青森・すいか】	p. 1
新農薬紹介 【ロビンフード】	p. 6
ムシできない虫の話 その②	p. 8
食の安全性について考える (54) 【42:複合毒性】	p. 11
防除のすゝめ 【果樹カメムシ類】	p. 13
今月のご相談から 【ガットサイドS / バリダシン 液剤5 / ダントツ水溶剤・ダントツ粒剤】	p. 15
8月のおすすめ製品	p. 16
オリーブづくり奮戦記③	p. 17
農業高校の今	p. 19
【お知らせ】相談室お休み 他	p. 23
i-農力だより農園	p. 24
美味しい時間へようこそ♪	p. 25
編集後記	p. 26



タチアオイとノゴマ
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(123)

本州最北端！青森でブランドすいかを栽培中

本州最北端、青森県といえば、みなさん一番最初に想像する作物はりんごではないでしょうか。そんなみなさんの期待を裏切り、今回お邪魔するのはなんとすいか農家さんです。つがる市の「屏風山蔬菜（そさい）生産組合」で副組合長兼資材部長をされている横山治彦さん（56歳）は、すいか・メロン・水稻を育てる、この道30年のベテラン農家です。

6月はご本人いわく「大変忙しい時期」とのことでしたが、我々の来訪を笑顔で歓迎してくださり、つがる弁を封印して、極力わかりやすい言葉で話してくださいました。

（訪問日：6月16日）



横山 治彦さん

横山さんは、現在お父さん、お母さん、奥さん、娘さん（次女）と暮らしており、他に長男と

長女が独立して生活しています。ご両親がこの地で農業をされており、小さい頃からその姿を見ていた横山さんも 26 歳頃に農家として後を継ごうと決心し、ご両親と一緒にすいか栽培を始めました。

りんごで有名なつがる市ですが、横山さんが住んでいる地域は海が近く、気温があまり上がらない上に、潮風の影響を受けることから品質があまり良くなく、50 年程前からりんごに代わってすいかの栽培を始めました。このあたりは寒暖差も大きく、黒土、赤土に加え、砂地含量も多い土壌で、海からののがり成分も土壌に含まれていることから、すいかの栽培には適していたと考えられます。現在、すいか 1ha、メロン 40a、水稲 1.8ha を栽培しています。栽培は奥さん、お父さんも手伝ってくれますが、ほとんど横山さん 1 人でやっています。すいかは以前親戚などの協力で 2ha 栽培していましたが、人手が少なくなり今は 1ha で手一杯になってしまいました。



だいぶん育ったすいか

寝食忘れて栽培しています



お手伝い中の奥様（後から奥様と判明）

すいかの栽培についてお聞きしました。2 月中旬頃、資材の調達確認から始まり、3 月に入ると苗床に播種を始めます。1,000 本は自分で接ぎ木していますが、残りは業者から購入します。その後 4 月 25 日前後と 5 月の連休の頃に定植し、整枝・交配作業の後、着果を確認しながら大きく育てていきます。一株に 2 個を残しあとは摘果します。交配作業は 6 月まで横山さんご自身で、その後はハチに頼っているそうです。交配後のだいたいの日数で収穫時期はわかりますが、タイミングを逃すと品質に影響するので、正確な日を探るために、収穫が近づくと毎日一個ずつ食べてみて、色具合や味で収穫適期を見計らうのだそうです。そのため赤くなる前の全く甘くないすいかを食べることになり、栽培者でありながらおいしいすいかを食べることはできません。「すいかは 2~3 日収穫が遅れるとダメになる。白いすいかしか食べていないから、すいかはあまり好きじゃない」と苦笑いしておられました。7 月上旬くらいには収穫が始まり、これが 9 月頃まで続きます。

すいかの他に、メロンや水田での作業もほぼ同じ時期に行うため、5 月~7 月にかけては多忙極まる時期になります。朝の 4 時から夜の 7 時まで圃場に出ており、9 時には就寝するので、家の中



すいかとメロンの圃場 遠くに岩木山も見えます

で起きている時間はほんのわずか。作業効率を考え、前日の夜に次の日に何をするか頭の中で考えておくそうで「タスク管理をしないと寝られない」のだとか。さすが経営者と感心しました。

すいかとメロンを収穫し、お米の収穫を終えれば一段落なのかと思いきや、別法人でだいたまで栽培しているそうで(!) その収穫・乾燥・調整作業で12月中旬(クリスマスの頃)まで暇なく働きます。ようやくゆっくりできるのは1月~2月中旬までのわずかな期間。「もともとヒマにしているのが苦手で、休んでいても2月に入ると体がうずくんだ」とニヤリ。横山さん、根っからの仕事人です。

わらの効能



一面に敷かれたわら



弦を引き出す作業

病虫害防除についてもお聞きしました。ここでは昔から、圃場全面にわらを敷きます。わらには様々な効能があり、保湿・防草・靴を汚さない衛生面の他に、伸びてきたすいかやメロンの弦を伸ばし、わらの上で育てるため、傷や汚れを防ぐメリットがあるそうです。すいか農家のほとんどが水稻も育てているのは、このわらを調達するためでもあります。ただ、わらには雑菌が多く、衛生管理が大変です。また殺虫剤も最近は効力の良い製品が増えてきたことから、高価な製品と安価な製品を交互に散布するようにしているそうです。



圃場にそびえ建つわら山

「屏風山すいか」というブランド

「屏風山野菜生産組合」は、昭和39年12月7日に設立され、昭和44年には、同組合地区で育てられているすいかを「屏風山すいか」という名称で商標登録しました。現在では「屏風山ブランド」として高い評価を得ており、市場では高値で取引されています。組合ではホームページを立ち上げており、各メンバーの栽培履歴(肥料、農薬の施用日)や残留分析結果を公開しています。こういった情報を積極的に見せることで、消費者に安全・安心を伝えたいと考えています。「組合の認知向上やイメージアップにもつながる」と、頑張っています。



組合長の神成（かなり）誠治さん（右）
ピンクのポロシャツがステキです

組合に所属するすいか農家は、以前は100人程いましたが、今では22、3人程度しかいなくなってしまいました。組合のメンバーもだんだん高齢化して

きており、組合を存続していく上で大きな課題になっています。「農家は頭が悪くてはできないが、利口ならもっと割のいい仕事に就くだろう。これからは重ねた苦勞を結果にしていかなければならない。結果がともなわなければ後継もいなくなる」という組合長の言葉が印象的でした。生産者ばかりで出来た組織なので、活動時期などが限られてしまうのが難点ですが、今後も組合の挑戦は続きます。



つがる市のマスコット
「つがるちゃん」
頭がすいか

また、農家としての経営は変動が激しく、安定しないことが大きな課題です。すいかも、他産地の価格が悪いとそれに引っ張られる傾向にあります。他産地のすいかが順調に売れば、期待できる収入を得ることができますが、天候次第で大きく左右されるのがデメリットです。色々なサイズのものを押しなべて2,000円/箱で売ればまあ良い年だそうで、希望としてはもう少し高値で販売したいそうです。



後継問題

横山さんはお父さんからうまく代替わりできた方ですが、ご本人も次の代となると二の足を踏んでいます。苦勞が多い割になかなか作業に見合った収入が得られないこと、それを自身が一番よくわかっているからこそ、無理強いはいできないそうです。現時点では息子さん本人が「後を継ぎたい」と言わない限り、自分の代で終わらせると覚悟しておられます。

お客様に喜ばれるものをしっかりと

30年農業に携わってきて感じるやりがいについてお聞きしました。「昔は肉体労働で苦勞の多い農業が嫌いだった。30年やってきて、花が咲き、実が成り、自分が手塩にかけた作物が巣立っていくのをずっと見てきて、良いものが出来ると楽しくなり、忙しいのがうれしくなってきた。

お客様に喜んでもらえるような良いものをしっかり作り、これからも届けていきたい」どれだけ苦労しても品質には絶対に妥協しない、という横山さんの熱意が伝わってきました。

農繁期のわずかな楽しみはお酒。青森も有名なお酒が多く、少しずつ味わっているそうです。また農閑期のパチンコが息抜きになっていて、それを楽しみに日々頑張っているらしいです。

皆さんもどこかで「屏風山すいか」を見かけたらぜひ食べてみてください。

今回の取材は「屏風山野菜生産組合」のご協力を実現しました。ありがとうございました。

(竹迫・太田)



すいか・メロンの病害防除に

ベネセット[®] 水和剤

[目次へ戻る](#)

新農薬紹介

農林水産省登録 第23780号

ロビンフット®

— エアゾール —



ロビンフットは住友化学(株)の登録商標です。

狙いを定め、
一撃防除。



ヒメボクトウ幼虫*



カミキリムシ幼虫

フェンプロパトリン0.020%

適用害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数
りんご	ヒメボクトウ カミキリムシ類	収穫前日まで	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	2回以内	4回以内 (噴射は2回以内 散布は2回以内)
なし	ヒメボクトウ				
樹木類	ケムシ類	—	噴射	6回以内	6回以内

2016年7月現在の登録内容

*福島県農業総合センターより提供

ロビンフッドの特長

○いつでもどこでも防除できるハンディタイプ

携帯性に優れているので、管理作業の合間でも気軽に防除できます。また、害虫に応じてノズル式と噴射式の切り替え可能な2ウェイノズルを採用しました。

○接触毒で高い殺虫効果

接触毒性に優れているので、食入孔に潜む害虫に高い効果を発揮します。また、ヒメボクトウではフラッシングアウト(追い出し効果)が認められることもあり、食入孔から出てきた害虫は死に至ります。

○低温時でも効果が安定

春、秋などの低温時においても安定した効果をもたらします。

使い方

使い方動画は
こちらをクリック



1

フラス(木くず、虫糞)の発生があったら、害虫の食入孔です。



2

指などで食入孔のフラスをできるだけ除去します。



3

ロビンフッドのノズルの先を食入孔に挿入し、噴射します。



4

薬液が逆流するまで2~10秒間噴射することで、樹の中で殺虫効果を発揮します。



5

ヒメボクトウではフラッシングアウト(追い出し効果)が認められることもあり、食入孔から出てきた害虫は死に至ります。



詳細はこちら



(小川)

[目次へ戻る](#)

ムシできない虫の話

フーン そうなんだ!

その② 果樹を加害するカメムシ類

技術顧問 清水喜一

「害虫の名前を知る方法」シリーズ続編です。今回は特にテーマを決めないで、これまでの経験の中から皆さんがふーん、そうなんだと少しは感心し、興味を持ってもらえるような話題を提供したいと考えています。

第2回目は果樹カメムシ類の生態から、発生量の予測方法を考えてみました。



果樹カメムシ類

果樹を加害するカメムシ類のことを総称して果樹カメと呼んでいますが、代表的な種類はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ（以下チャバネ、ツヤアオ、クサギと省略）の3種です（写真1~3）。柑橘類、なし、かき、りんご、うめ、もも、ぶどう、びわなど、ほとんどの果樹で被害が発生します。果実だけでなく、花や新芽を加害することもあります。幼果期や肥大期に加害された果実は奇形果となったり落果したりします。成熟期に加害されると吸汁された所が水浸状になり、商品価値はゼロになってしまいます。



写真1:チャバネアオカメムシ



写真2:ツヤアオカメムシ



写真3:クサギカメムシ

生活史

3種とも成虫で越冬します。越冬場所はそれぞれ違ってチャバネは落ち葉の中、ツヤアオは冬でも緑を保っている植物体上（写真4）、クサギは戸袋内など家屋の中で越冬していること



写真4:びゃくしん樹間内で越冬するツヤアオカメムシ



写真5:そめいよしのの実を吸汁するチャバネアオカメムシ

が多いようです。春になると活動を開始してさくら（写真5）やくわなど実を付けている植物を渡り歩いて生活しますが、これらの植物ではほとんど増殖しません。

さくらにしてもくわにしても卵から孵化した幼虫が育ちきるまで実が付いていないからです。この時期の密度が高いと各種の果樹にも飛来してびわの熟果（写真6、7）やうめ、なし、もも等の幼果が加害されます。5、6月に被害を発生させるのは冬を越した越冬成虫です。

ちなみに果樹カメの幼虫は果樹類の果実だけでは最後まで発育することはできません。果樹カメは、本来種子食の昆虫で人間が改良する前の果肉が少なく種子ばかりだった原種果樹のようなものを飼料としていたものと考えられています。現在でも餌にならない果実を加害するのは、先祖の血がそのような行動をさせているのかも知れません。

主たる餌植物はひのきやすぎの球果です（写真8）。各種植物を渡り歩いていた越冬成虫は、7月頃になると餌になる球果が発生したひのきやすぎの林に移動して繁殖活動に入ります。8、9月になると新成虫が発生します。新成虫もひのきやすぎの球果を吸汁しますが、球果が不足すると新成虫はひのきやすぎの林から離脱し、なし（写真9）、かき（写真10）、ぶどう、柑橘類に飛来して熟果を加害します。果樹カメの被害は越冬成虫によるものと新成虫によるものを区別して考えなければなりません。

この新成虫が越冬するので果樹カメは基本的に年1回の発生をしていることになります。



写真6: びわの被害果



写真7: びわの果実袋に空けられた穴



写真8: ひのき球果を吸汁する
ツヤアオカメムシ



写真9: なしを吸汁する
チャバネアオカメムシ



写真10: かきを吸汁する
チャバネアオカメムシ

発生量の予測

主たる餌植物であるひのきやすぎの球果量によって、果樹カメの発生量が決まると考えられています。球果量は春先の花粉量に比例します。花粉の飛散量が多く、花粉症の人が大迷惑を被った年は球果量も多くなります。球果量が多ければそれを餌とする新成虫の発生量が多くなり、少なければ少発生になるというわけです。

花粉量	球果量	新成虫量	越冬密度	翌年春の発生量
① 多	② 多	③ 多	④ 高	⑤ 多
⑥ 少	⑦ 少	⑧ 少	⑨ 低	⑩ 少

何か「風が吹けば桶屋が儲かる」みたいな話ですが、基本的にはこの考え方で間違いはないようです。

被害を考えてみましょう。前頁の③の時、球果の量が十分過ぎるほどあれば越冬地に移動するまでひのき、すぎ林にとどまり果樹の被害は発生しませんが、大量の新成虫が発生した時点で餌不足になれば新成虫がひのき、すぎ林から離脱して果樹に甚大な被害が発生します。⑤については被害も多くなると考えられます。

⑧の時も③と同じです。少ないながらも餌が足りていれば果樹の被害は発生しませんが、新成虫の密度が低くても餌が足りなくなれば多少なりとも果樹の被害は発生します。⑩については被害も少ないと予想されます。

ただ、これだけですべてが説明できるわけでもありません。果樹カメの発生量も球果の発生量も多いか少ないかだけではなく、やや多い時もあるればやや少ない時もあります。また、越冬成虫とその子供である幼虫が同じ餌を食べるという問題もあります。餌の絶対量にもよりますが、越冬成虫密度が高いと球果の消費量が多く、幼虫にとってはマイナス要因、餌不足が起こる可能性があります。逆に越冬成虫密度が低いと幼虫には十分過ぎるほどの餌が用意されていることになります。新成虫密度はその年の球果の量に大きく影響されますが、越冬世代成虫すなわち親世代の密度も無関係ではありません。かなり複雑な関係で新成虫の発生量は変化していると考えられます。

新成虫がひのき、すぎ林から離脱するかどうかについては、ひのきの球果に残った口針鞘（こうしんしょう：カメムシが吸汁した痕跡）（写真 11）の数から予測する方法が考案されています。

口針鞘は、そのままではよく見えませんが、酸性フクシンという薬品で染色するとピンク色に染まってはっきりと見えるようになります。1つの球果に25本以上の口針鞘があるとその球果は劣化してしまい、果樹カメの餌としては不適になると報告されています。多くの球果が劣化してしまい、餌不足になると果樹カメはすぎ、ひのき林から離れ、果樹園に飛来します。早い時期に球果が不足すると各種の果樹で甚大な被害が発生することになります。しかし、球果を分解して口針鞘数を数えるのは時間のかかる大変な作業で、そう多くの球果を調査できません。正確な球果の量と口針鞘数が分かれば、すぎ、ひのき林からの離脱時期と果樹の被害量もきちんと予測できるのですが、現実的にはなかなか難しいようです。



写真 11: ひのき球果に残された口針鞘(種子に届いている)

[目次へ戻る](#)

食の安全性について考える(54)

42 複合毒性

農薬を取り扱うにあたり、大きな3つの安全性が問われることになる。

第1は、農薬の取扱者すなわち農薬の製造、散布作業などに従事しているものが曝露して被害にあう場合。第2に、農薬が作物に残留し、それが摂取されて人体に影響を及ぼす場合。第3に、農薬が自然環境や生態系に及ぼす影響などについてである。特に、近年は環境運動の高まり

とともに農薬への関心も一段と強まっている。それらのことを踏まえ、農薬の安全性について、わかりやすく解説した農薬工業会編「なるほど！なっとく！農薬Q&A」をしばらく掲載したい。(古津)



絵：加藤さん

Q：少しでも、いろいろな農薬が残留していると複合毒性が出るのではないのでしょうか。

A：農作物に残留する農薬は微量ですので、複合毒性を示す事例はありません。

農薬に関していえば、農作物に複数の農薬が残留している例はそう珍しいことではありませんが、その残留量が微量であることを考える必要があります。もともと残留農薬基準は、各種安全性評価試験より導き出された無毒性量（NOAEL）に、通常100倍の安全係数をみて定められた一日摂取許容量（ADI）をもとに決められています。実際に農薬の残留実態を調べても、検出されないか、たとえ検出されてもその量は残留基準を下回っているのがほとんどです。

したがって、複合毒性の問題は、科学的には「毒性を示さないような量以下の物質が複数存在することにより毒性が現れるか」という研究テーマとなり、内分泌攪乱化学物質の論議以来、多くの研究者が研究を続けていますが、肯定するような事例は報告されていません。

たとえば、現在使われている代表的な農薬40種類と20種類について、それぞれのADI（一日摂取許容量）に当たる量を、すべて合わせてラットに投与し続けるという動物実験が名古屋市立大学医学部のグループにより行われました。40種類の農薬についての実験では、「ADI量を同時に摂取しても発がん性を示唆する変化はまったくみられず、ADI量の意義とその有用性が明らかになった」という結論が得られました。また20種類の農薬についての実験では、「ADI量で複合投与した場合には肝発がんに対しまったく作用を示さないことが明確に見出された」と結論づけています。

これらの実験はすべての農薬の組み合わせについて行われたわけではありませんので、この結果だけで、複合毒性の可能性はまったくないとは言いきれません。しかし、一般的に、相乗毒性（複合毒性）が発現するかどうかは、共存する物質の濃度による影響が大きいと考えられており、ADIよりさらに少ない残留量の農薬はいくら集まっても何らの作用も示さない、つまり相乗毒性を発現しないと専門家は考えています。かつて小説がテーマとしたような、いわゆる複合汚染をいたずらに心配する必要はないものと考えられます。仮にあるとすれば、通常では全く効かない微量の薬量でも効くこととなり、むしろ利点にもなるのですが、現実的には起こり得ないことでしょう。

参考資料

- * 福田秀夫『農薬に対する誤解と偏見』2000、化学工業日報社
- * 梅津憲治『農薬と人の健康』1998 日本植物防疫協会
- * 梅津憲治、大川秀郎『農業と環境から農薬を考える』1994、ソフトサイエンス社
- * **Review of the Risk Assessment of Mixtures of Pesticides and Similar Substances (2002),**
Committee on Toxicity of Chemicals in Food, Consumer Products and the Environment,
UK



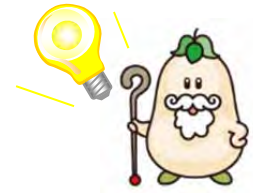
絵：加藤さん

[目次へ戻る](#)

生き字引相談員の

防除のすゝめ

～主要果樹作物のカメムシ類の被害と防除対策～



果樹を加害するカメムシ類は、1973年に全国的に大発生して以来、幾度となく大きな被害を与えてきました。国内で約30種類以上が知られており、それらの中で以下の三種が主な果樹カメムシ類です。

チャバネアオカメムシ・・・全国的に発生し、樹林地の落葉の下などで成虫越冬します。

クサギカメムシ・・・関東甲信以北で発生し、建物内のすき間や屋根裏などで成虫越冬します。

ツヤアオカメムシ・・・南関東から西南団地で被害が多く、常緑樹の樹冠内で成虫越冬します。

(発生生態)

果樹カメムシ類の発生生態につきましては、清水顧問の記事で詳しく解説していますので、そちらをご覧ください。本記事では主な被害と防除対策をご紹介します。

(主な果樹の被害)

<かき>

- ・果実の吸汁痕は、丸い水浸状の斑点となります。
- ・8月中下旬までに加害された果実の多くはヘタを残して落果しますが、収穫期に近づくと被害果の落下する割合は減少します。しかし落果しなかった被害果は、吸汁跡が丸くへこみ、中の果肉部が白いスポンジ状になり、商品価値が著しく損なわれます。



被害果(かき)

<かんきつ>

- ・被害を受けた果実は果梗部周辺がやや赤みを帯びて異常に早くまだらに着色し、被害後数日経過してから落果します。
- ・10月中旬以降に加害されると、落果は少なくなりますが、貯蔵中に果面に褐色斑が現われたり、腐敗果が多くなったりします。

被害果(レモン)
(青木 瑞代氏撮影)

<なし>

- ・落花後から加害が始まりますが、本格的な加害は7月以降です。
- ・なしの場合、カメムシに加害されても落果しません。
- ・初期に加害されると奇形果となり、収穫間近の成熟期に加害されると、加害部の下の果肉が白くスポンジ状になり、著しく品質が低下します。



被害果(なし)

<もも>

- ・幼果期から成熟期まで加害されます。
- ・幼果期に加害されると、やがて落果します。幼果期を過ぎると落果しなくなりますが、吸汁部からヤニが出て固まったり、被害部の中が白くスポンジ状になったりします。

<りんご>

- ・果実肥大期の加害では、果実表面が吸汁痕を中心に緑色を伴って大きくくぼんで奇形となり、内部の果肉も褐変します。
- ・成熟期の加害は、果実表面が若干くぼむ程度ですが、内部の果肉は果汁が抜けて白くスポンジ状になります。

(防除対策のポイント)

果樹カメムシ類の発生量は年次変動が非常に大きいので、病虫害防除所から発表される発生予察情報に注意して早めに被害防止策を講じる必要があります。

移動性の高い害虫ですので、果樹園内をこまめに見回り、早期発見・早期防除を心掛けます。

1. 耕種・物理的防除

- ① 果樹園の防風樹等、ほ場周辺のすぎ、ひのきは結実しないよう枝管理します。
- ② 常発園では、ネット（網目 4mm 以下）で園全体を覆い侵入を防ぎます。

2. 農薬による防除

- ① 防除スケジュールに合わせて、他の害虫と同時防除のできる薬剤を選択します。
- ② 果樹園への多飛来が予想される場合、最初の防除からカメムシに残効の長い薬剤を散布し、その後も飛来量が減少するまで計画的に防除を実施します。



吸汁部位の果皮と果肉が癒着しはがれた様子(みかん)
(青木 瑞代氏撮影)

住友化学がお薦めする主要な果樹カメムシ類防除剤

(合成ピレスロイド系) 果樹カメムシ類に対して、速効的で残効性に優れ、適用害虫も多いので、単独防除剤としても同時防除剤としても実績があります。

**アグロスリン乳剤、アグロスリン水和剤、
アディオン乳剤、アディオンフロアブル、
パーマチオン水和剤、ロディー乳剤、ロディー水和剤**



(ネオニコチノイド系) 果樹カメムシ類に対して、残効性に優れ、吸汁阻害効果も認められます。適用作物が広範で、適用害虫も多いので、単独防除剤としても同時防除剤としても実績があります。

ダントツ水溶剤



(有機リン系) 速効性に優れますが、残効性は短いため、他の害虫との同時防除剤として長く使用されています。

**スミチオン乳剤、スミチオン水和剤、
サイアノックス水和剤**



なお、具体的に薬剤を選択・散布される際には、ラベル等で登録内容、使用上の注意事項を確認して適正な使用をお願いします。

(納谷)

[目次へ戻る](#)

「知りたい！聞きたい！農業・肥料」のお客さま相談室より

今月のご相談から



1. 香川県 農家の方

Q：みかんの木がカミキリムシにより被害を受けます。ガットサイドSを塗布することで長期間予防できると聞きました。使用方法の原液塗布とはどのようにするのですか？

A：加害するカミキリムシはゴマダラカミキリです。成虫は5月中旬ころから羽化が始まり、6-7月が発生のピークです。羽化した成虫はみかんの若枝や葉を食害しますが実害はほとんどありません。成虫は主幹の地際から60cmくらいまでの間に傷をつけて産卵し、孵化した幼虫が樹皮下や木質部に食入し、翌年の蛹になるまでの間加害し続けます。防除は、成虫の産卵期である6-7月に原液を刷毛で主幹全体に塗布してください。塗布だけではなく原液又は1.5倍希釈液の散布も可能です。薬液が葉や緑枝に付着しなければ薬害の問題はありません。本剤の使用は年1回で、効果は1ヶ月ほど持続します。ゴマダラカミキリは多くの果樹類や樹木類にも加害し、木を枯らす害虫として大きな被害を及ぼし重要害虫として位置づけられています。



2. 熊本県 農家の方

Q：以前から、稲の紋枯病にバリダシン液剤5を散布してきました。JAから、本剤は治療効果はあるが予防効果はないと言われました。予防効果は無いのでしょうか？本剤による紋枯れ病の散布適期はいつ頃でしょうか？

A：紋枯病は前年の菌核が稲株際に付着し、菌核から菌糸が伸び病斑を形成します。病斑が上位に進展すると、上位節の葉鞘が折れ、上位節で倒伏したり、籾の捻実不良による減収で大きな被害を及ぼします。バリダシン液剤5は菌糸の伸長を停止させ、株上位への病斑進展を阻止させる効果に優れていますので、予防効果より治療効果がより高いと言えます。散布時期は下位に病斑が見えてから以降で、高温で株間湿度が高まり菌糸の進展が活発になる穂ばらみ期前後が散布の目安となります。株元まで薬剤が到達するように散布することが重要です。

3. 福岡県 農家の方

Q：稲のカメムシ防除にダントツ水溶剤かダントツ粒剤の使用を考えています。水溶剤の場合、散布後の降雨の影響は何時間経てば問題ありませんか？残効性は何日ありますか？展着剤は必要ですか？粒剤の場合の残効性は何日位ありますか？

A：ダントツ水溶剤は稲が乾いた状態で散布し、散布液が乾き数時間経てば雨が降っても影響は少ないです。本剤の残効期間はカメムシの種類によっても異なりますが、7-10日前後です。稲は薬剤が付着しにくいので展着剤を加用してください。粒剤の場合、効果発現まで数日要します。カメムシの本田への飛び込みは出穂期前後がピークとなりますので、粒剤の散布は出穂前後を目安としてください。残効期間は2週間前後期待できます。カメムシ類の発生は年次変動がありますので、出穂期にダントツ粒剤を散布し、その後の発生や他病害虫の同時防除を考慮して他剤での追加散布をお勧めします。

(酒井)

[目次へ戻る](#)

8月のおすすめ製品



画像をクリックしていただくと、i-農力サイトの詳細ページが表示されます。

水稻農薬

ブラシン



シリーズで良質米作りをお手伝い
美しい穂の仕上がりに♪

バリダシン液剤5



稲の紋枯病防除に！
出穂期の散布でも優れた効果♪

ダントツ



良質米づくりに 斑点米の原因
カメムシ類防除の決め手！

ベストガード



トビロウンカに高い防除効果！
選べるタイプ&コンビネーションで
まとめて防除♪

園芸農薬

ロビンフッド



食入孔にノズルを差し込み強力
殺虫！ヒメボクトウ・カミキリムシ
類を省力防除。待望の新商品！

ベンレート水和剤



水稻・果樹・野菜の病害防除！

ダントツ



幅広い殺虫効果&優れた
浸透移行性！残効も長い♪

スクレアフロアブル



なし・もも・豆・葉菜の殺菌剤！
ついに新登場！！

除草剤

ゼータタイガー



3成分配合でクログワイに底
力！3製剤勢揃いで新登場！

ゼータハンマー



2成分で高葉齢のノビエにも
高い効果！田植同時処理可

ゼータワン メガゼータ



難防除雑草に優れた効果！
3剤型勢揃い！

ゴエモン



ノビエに卓効の新規成分！
ついにジャンボ登場！

肥料

住友 液肥M号



メチオニン・グルタミン酸
添加アミノ酸入り液肥

スミカエース



野菜・果樹・花き・芝生・茶用
硝酸化成抑制材 DCS 含有

スーパー SRコート



被覆肥料の種類が豊富
溶出 20日~180日まで！

薬一



倒伏軽減剤入り
水稻用基肥一発肥料

オリーブづくり奮戦記③ (香川県多度津町で)

前回までの内容は、耕作をしていない園の持ち主に、私がオリーブを植えたいとお願いして園地を借りるまでの話でした。今回は、借りた園地を整地して、いよいよオリーブの苗木を植える話です。

大変苦勞したオリーブの植え付け作業

園地の造成工事は翌年 2014 年 1 月に地元の土建会社が行いました。作業には立ち会っていませんが、ぶどう棚を支えるコンクリートの支柱やワイヤーを撤去して、ブルドーザーできれいに整地されていました。

3 月に入って、植付け作業に必要な資材（堆肥、化成肥料、農薬、支柱など）が JA の資材倉庫に届き、オリーブの苗木も中旬に配布との連絡を受け、私は早めに帰省して、鍬、鎌、長靴、杭を打つハンマーなどを揃え、植付け作業の準備に取り掛かりました。人の手配は昨年末に学生時代の友人、妹夫婦、妻、部会長に声をかけていました。



オリーブの苗木を植え終えて

いよいよ、3月14日、15日、16日の3日間かけて植付け作業が始まりました。その様子を記しますと、まず園地を巻尺で等高線に沿って計測しました。園の縦横3m間隔に目印して、そこを鍬で穴を掘り、苗木（オリーブは浅根性）を植えました。10アール当たりの植付け本数は約100本ですので、2か所（圃場名：組地、平尾）計27アール合わせて約270本です。株元には堆肥1袋（15kg）を雑草防除の目的を兼ねて施用しました。本来は植穴に堆肥を入れ、土に馴染ませてから苗木を植えるのですが、資材到着が遅れたため株元に置きました。最後に風で苗木が倒れないように、支柱を立てて、麻紐で幹を結束しました。

以上の作業は平坦地（組地）ならば比較的楽ですが、急斜面（平尾）だとそうはいきません。100以上の植穴に堆肥袋を担いで登るのは大変な重労働でした。また、造成工事で地下水脈を壊したのか、泥濘（ぬかるみ）が何か所も出来ていて、そこに足を踏み入ると長靴が抜けず大変な目に遭いました。3日間の悪戦苦闘の末、なんとか作業は無事に終り、その夜は手伝って頂いた方々に慰労を兼ねて「ご苦勞さん会」を開きました。その席で、苦しかった作業を思い起こし、私は心から皆さんに感謝しました。

帰省のたびに雑草との戦いでヘトヘト

5月の連休に帰省して、早速オリーブ園に行ってみました。すると、重大な問題が3つほど起きていました。一つ目は、平尾園に植えた苗木が案の定、過湿のために根が腐り20本ほど枯れかけていました。二つ目は、園全体に雑草が旺盛に繁茂していました。やっかいなことに、平尾園にはススキやネザサまで侵入しています。三つ目は、猪（当地域でも急激に増加）が園地に侵入して、餌としてミミズを獲るのか、そこら辺をほじくり返して、その勢いで近くの苗木も引き抜かれていました。

そんな状況を見て「これからは雑草との戦いだ！」と直感しました。そのことは的中して、帰

省のたびに腰まで伸びた雑草を草刈機で刈ることになりました。特に旺盛に繁茂する時期は梅雨時から盛夏にかけてです。猛暑のなかでの草刈りは本当に体力勝負です。また、厄介なことに、ぶどうの棚を支える鉄杭が圃場の周囲に取り残され、草の中に隠れています。それに草刈機の刃（回転）が触れると異様な金属音を発して、刃がこぼれます。本当に危険で神経を消耗します。苗木の支柱も緑色で雑草と見分けが付きにくく、草刈機で根元から何本も切断しました。草刈りを終えると心身ともにボロボロです。帰京の新幹線では疲れ果てて、岡山から東京までほとんど爆睡状態です。

オリーブの経営は3本柱で（オイル・新漬け・お茶）



しっかり根付いたオリーブの苗木

突然話は変わりますが、こんなことがありました。

地元の農業試験場を退職されて、オリーブアドバイザーをされている方がおられます。その方と私は会社の技術顧問の先生を介して知り合いました。わざわざ、その方が私の園地まで来られて、的確なアドバイスをいただきました。

その時のメモですが、①オリーブの木の高さは、ビールケースの上に乗って手が届くぐらいが丁度よい。木が高いと梯子が必要になり危険度が増す。また、作業効率もよくない。②オリーブは地中海地方が原産で、その気候に合った管理が大切である。冬に地中海沿岸は雨が多いので、それに合わ

せて2月に灌水すると品質の良いものが採れる。③平尾園は作業条件がよくないので、枯れずに残った木は大きくして観光農園にすればよい。ここは景色のよい瀬戸内の海と島を眺められるので、くつろげる小屋を作ればよいのではと。

また、オリーブ経営は3つの製品に注力すればよい。①オリーブオイル、②新漬け、③オリーブ茶。

オリーブを通して人との出会いが楽しい

オリーブと関わって、色々な人と知り合う機会が増えていきます。その内の一人は、実家近くの渡邊さん（生産組合役員、蒼のダイヤ社長）です。ご本人は水田を整地してオリーブを植え、それを機にオリーブ部会に参加して、私と知り合いました。同年代ということもあり、すぐに親しくなりました。今では家族ぐるみでお付き合いをしています。もう一人は、神戸市在住で植木業者の尾上（おのうえ）さんです。私がお客様相談室の担当をしていると尾上さんから相談の電話があり、植木用オリーブの話で盛り上がり、わざわざ私の園地まで訪ねてこられオリーブの木を観ながら楽しくお話をしました。

私の趣味のそば打ちも大いに役立っています。今年2016年5月帰省の折、渡邊さんご家族にそばを振舞ったところ高校1年生のお孫さんが、美味しいと言って大変喜んでくれました。尾上さんには私が打ったうどん（生麺）を送りました。お礼に、ご自宅の畑で栽培しているレンコンや野菜を段ボールいっぱい詰めて送ってくれました。今後、オリーブが順調に育ち収穫が出来るようになれば、お世話になった人や親しい方々に、私が漬けたオリーブの新漬けを差し上げたいと思います。（つづく）

（古津）

[目次へ戻る](#)

農業高校の今

～福島県立岩瀬農業高等学校編②～

全国の農業高校の取組みを不定期で紹介しているこのコーナー。若者の「農業離れ」が叫ばれる昨今、農業高校に通う生徒が農業に対してどのように向き合っているか、表面上にとどまらず一歩踏み込んだレポートにしたいと思います。「福島県立岩瀬農業高等学校」の2回目です。

田んぼアート

岩農（がんのう）と言えば「田んぼアート」。福島県では誰もがよく知っている有名な催しです。伊藤先生に案内していただき、よく見える図書館の最上階から眺めました。環境工学科の生徒たちが、平面ではなく、斜め上から見てきれいな絵になるよう測量し、生物生産科の生徒たちが育てた苗を、地域の方々とともに田植えから収穫まで行います。色の違いは全て品種の違い（例：黒く見える部分は黒米）で、色分け部分に測量技術の力量が試されます。毎年童話からテーマを決めており、今年は「かぐや姫」。見ごろは7月末で、取材時（7月1日）は、まだかぐや姫の顔が青い状態でした。この見ごろを過ぎると、今度は稲穂たちが頭を垂れ、全体的に色あせてしまうのだそうです。見ごろの時期には県内外からたくさんの観光客が訪れる、鏡石町の一大イベントです。



鏡石町のマスコットキャラクター「アーサーくん」(後ろ向き)



授業紹介



前より大きくなってる♪

園芸科学科3年の実習にお邪魔させていただきました。前回のレポートでも紹介したように、現在3年の生徒は1人にメロン1畝を任せられ、週3回の実習を利用して栽培しています。管理は基本的に生徒に全て任せており、先生方は施肥装置やハウスの温度管理などを行っています。取材当日はメロン玉の周径を測り、記録していました。1株に1玉を残して他は摘果し、1畝のうちの5玉を計測します。ハウスでの水耕栽培ですが、日焼けや傷を防ぐため、メロンにネットが入り始めたところで新聞紙で作った笠をかぶせます。品種は一昨年までアールスナイト盛夏系を育てていましたが、種が生産中止で手

に入らなくなり、昨年はアールスナイト夏系2号にしました。ところが夏系2号は葉が小さく、玉の大きさにもバラつきがあり、大きいものでも1kg程度だったため（盛夏系はほとんどが1.5kgクラス）、今年はミレー盛夏系に変えたそうです。「やはり盛夏系は葉が大きく、玉の張りもいいので、お盆前の収穫期が期待できそう」（皆川先生）とのことでした。ちなみに生徒たちの目標は2kg/玉だそうです！夏休みも交代で登校し、栽培管理をしなければいけないのですが、「暑い暑い」と言いながら、みんな大きく育つ作物を見て楽しそうに世話をしているそうです。



マンホールを開けると豊富な地下水



手前がとうもろこし、奥が源吾ねぎ

栽培用の水は豊富な地下水を利用しています。病害防除は、ダコニール1000を使ってくださっています（ありがとうございます）。

またメロンの他にトマトも栽培しています。これは園芸科学科の1~3年生で育てており、毎日どこかの学年が実習に当たっています。水耕栽培ではカンパリを、土耕栽培ではパルトを育てています。他にも露地栽培で、とうもろこし、ピーマン、里芋、枝豆、ししとう、四角豆、源吾ねぎ（鏡石町の地場野菜）など、様々な野菜を交代で育てており、まるで小さな農家がたくさんいるようです。



園芸科学科3年生のみなさんと皆川先生

メロンの周径を測り終え、伊藤先生と一緒に案内してくれていた近藤さんに好きな作業、嫌いな作業を聞いてみました。「好きな作業はとうもろこしの皮むきです。大きく育ったとうもろこしを茎からポキッと折るのも好きです。嫌いな作業はねぎの後処理です。収穫したねぎを倉庫でひたすら剥く、切るという作業で、その都度どう処理するか判断しなければならないのも苦手です」と、販売に向けての調整の難しさも教えてくれました。

続いて、種まきをしていた花き類・観葉植物の授業にお邪魔しました。看板のように、1年を通して計10種類の花を栽培しており、4~5月が最も忙しいそうです。収穫した花の一部は老人ホームや高速SA等に寄付していますが、9割は市価より少し安く販売しています。1番人気はシクラメンで、



市価 1300 円前後するものを 1000 円程度で販売するため、いつもすぐに完売するのだとか。リピーターも多く、品質の良さを知っているお客さんは何鉢も買っていかれるそうです。

フレッシュショップ

フレッシュショップとは、岩農の生徒たちが運営している直売所のようなもので、年3~4回、須賀川市内の地域交流館で開催されています（今年は7月1日、9月9日、11月18日、12月2日の4回）。販売商品は季節で異なり、旬の野菜や花の他に、卵や食品科学科が作った加工品などが所狭しと並びます。運営は主に生産情報科（現アグリビジネス科）の3年生が行い、持ち回りで他科の生徒が応援に来るようです。ここからは、写真とコメントで臨場感をお楽しみください。



市が運営している「地域交流館」
5年前から利用しています



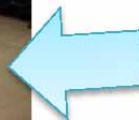
店長



全て生徒達で準備します



値段も自分たちで設定します



開店前
常連のお客さんが外まで並びます



我々も
整理券をゲット

開店!



今回目玉の「トマト詰め放題」大人気です

花の鉢も飛ぶように売れます





人気のマドレーヌは「すみません、1人1個なんです」と接客も全て生徒だけで



大行列のレジは袋詰めもてんでこ舞い「あれ、今のお客さん、品物忘れてった！」



生産情報科で生徒会長の遠藤くん
通称「店長」です

いつもお客様のことを考えて準備しています。
次回は果物も販売しますのでぜひお越しください！

並んで買ったヨーグルトと赤たまねぎヨーグルトは、このボリューム(170g)で100円はお得！



あまりの売れ行きに慌てて補充



ウルトラマン「M78 星雲 光の国」と姉妹都市提携をした「須賀川市」地域交流館のある新町街道にはウルトラマンのモニュメントがたくさんありました



お知らせ

食品科学科の生徒が加工した「いちごジャム」を抽選で5名の方にプレゼントします！

詳細はこちら

次回もお楽しみに！

(太田・竹迫)
[目次へ戻る](#)

お知らせ**お客様相談室お休みします**

8月6日～15日まで、お客様相談室業務をお休みさせていただきます。期間中は留守番電話となり、8月16日(火)以降順次回答いたします。お急ぎの方にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承ください。なお、中毒に関する緊急のお問い合わせは下記へお願いいたします。

公益財団法人 日本中毒情報センター

中毒110番	一般向け 問い合わせ料無料	医療機関専用有料電話 (一律 2,000 円)
大阪 (365 日、24 時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば (365 日、9～21 時)	029-852-9999	029-851-9999

訪問農家さん募集!

「農家さん訪問記」の取材にご協力いただける農家さんを募集します!

必要事項を明記のうえ、お客様相談室までご連絡ください。

農家さん(i-農力会員。他薦の場合は、推薦者が会員)であれば結構です。

たくさんのご応募、お待ちしております!!



ちなみに、次号の「農家さん訪問記」は
応募してくれた農家さんじゃぞ♪

詳細はこちら

**読者プレゼント実施中!**

「i-農力だより」をご愛読いただいている会員様を対象に、「読者プレゼント」を実施しています!

毎月「農家さん訪問記」で訪れた地方の特産品(お菓子や加工品)を抽選で1名の方にプレゼントします。

たくさんのご応募お待ちしております!

★応募方法★

今月号の「i-農力だより」で気になった記事を1つお選びいただき、ご意見・ご感想をお寄せください。

応募締切: **8月15日(月)**



詳細はこちら



[目次へ戻る](#)

i-農力だより農園

「i-農力だより農園」では、今月も社員が奮闘しながら作物を育てています。農家のみなさんの気持ちがわかるようになるのはいつの日か？みなさんからのコメントもどしどしお寄せください！

トップバッター佐伯です。

5月連休にひよんなことから稲苗(品種:たぶんコシヒカリ)をもらってしまい、サポテンをも枯らす栽培能力ゼロの私が、バケツで育てることになってしまいました。

それから2カ月半・稲はたくましく育っています。この間、ヒメジャノメにかじられたり、ボウフラが湧いたり、うっかり枯らしかけたり、色んなことがありました。最近、朝「おはよー」と挨拶して、土の表面の湿り具合を確認することが日課になりました。また、週末には娘とじっくり観察をし、「かじられてないかな?」「弱ってないかな?」など、一緒にチェックしています。「おこめのあかちゃん大きくなったね」と、娘も娘なりに気になっているようです。大きくなりすぎてバケツからはみ出そうですが、とりあえずはこのままで、「目指せ出穂!」を合言葉に、しばらく家族で見守りたいと思います。さて、どうなる!?おこめの赤ちゃん!

※ 娘については「美味しい時間へようこそ♪」をご覧ください。



ヒメジャノメ幼虫

伸びまくり!



これが



こうなった!



氏家農場長コメント

お～、なかなか豪快なイネですな。生花展に出展すればワイルド賞を受賞できるでしょう。株が混みこみなのと葉が黄色くなっているので、株を整理して、肥料を上げてはどうでしょう。さて、我が菜園の変わり種を紹介します。写真に写っているのは「トロンボンチーノ」というイタリアの伝統野菜です。果実は若いうちに収穫するとズッキーニとして、熟して収穫するとかぼちゃとして食べられます。キュウリと同様、支柱とネットで空中栽培しています(畑が狭いので・・・)。

[目次へ戻る](#)

美味しい時間へようこそ♪ 何でもチャレンジ!

相談室から佐伯がお送りします
食べることは生きること。
美味しいとはなんと幸せなことか。
日々の美味しい話を思いつくまお届けします。

GANNBATT A



娘自慢しても良いですか? 3歳を過ぎたわが娘。大きな病気もせず、元気に毎日、保育園に通ってくれています。この娘、すごいんです。何でも食べるんです。アレルギーがないこともあります。好き嫌いはほとんどなく、出されたものはほぼ全部食べてくれます。中でもすごいのが、ピーマン。そう、子供が苦手とする野菜の代表格ですね。そのピーマンを刻んでいたら、いつものように台所に入ってきて、何やら欲しそうにしているので「(生で) 食べられるけど苦いよ?」と前置きをしようとして、少し分けてあげました。すると、臆せずパク!と食べて、食べるなり「うまっ!」と言。え? 苦くないの? すごい! すごいよ! 娘っこ (笑)

食べるものや料理に興味があるみたいなので、最近は、いろいろ食材を見せてあげたり、食べる前に、何の食材が入っているかを教えてあげたりしています。先日は、皮付きとうもろこしを買ってきて、見せてあげました。「これ、なーんだ?」「?おネギ・・・」「おいしい! ほらこれだよ?」と皮をむいてあげると「とうころもし!! (←あってるけど惜しい!）」となりました。また、オクラも切る前の状態を見せてあげると、「おマメ?」「おいしい! ほら、これだよ」と、刻んであげるといつもの「おほしさま」の形が現れ、「あ、オクラだ!」となりました。

「経験は宝なり」これは我々夫婦の子育ての信念でもあります。 食べることも同じです。なるべく、いろいろなものを食べさせて、それに対応できる体を作ってあげたいですし、何より、いろいろな発見をして欲しいと思っています。折しも、果物の美味しい季節です。店頭には、さくらんぼ、



とうころもし!



可愛いさくらんぼ♪

もも、ぶどう、メロン、すいか、など、美味しそうな果物が目白押し! これを食べさせない手はありません。まず、見た目も可愛いさくらんぼを食べさせてみました。さくらんぼは種があるので、まず、私が、半分に割って見せて、「ほらね、種があるよ」と教えて、口に含んだら、種を最後にペッと出すところを見てもらいました。最初は、恐る恐る半分に割って食べていましたが、そのうちに慣れて、普通にパク!と食べて器用に種だけプッと出すことに成功していました。さくらんぼの感想は「可愛い♪甘い♪」でした。よしよし。次に、珍しく生のブルーベリーを入手できたので、やはり食べさせてみました。「ぶどう?」「似ているけどちょっと違うな~」のやりとりのあと、皮をむいて (笑) 少しずつかじっていました。「酸っぱい」と言いながらいくつか食べて、舌が青くなったのを喜んでいました (笑)。そして、次にももを一緒に食べました。もも味のヨーグルト飲料とか、お菓子とかは食べたことのある娘。実物を見せて「ほら、これがももだよ!」「でね、皮を剥くの」そして、「ほれ、食べてみな」と口に放り込んであげると、目を見張って「美味しい~♪」と大喜び。まるで、世の中にはこんなに美味しいものがあつたのか! とばかりの喜びよう。「ね~美味しいねえ。一所懸命育ててくれた農家さんにありがとうだね~」と、一緒に季節の味覚を楽しみました。



もも! もも~!

これからまだまだいろいろな食材に触れる機会がでてくると思います。 慣れ親しむには最初の印象が大事ですね。それにはちょっとした演出や工夫も必要です。忙しい毎日ですが、親も一緒に楽しむくらいの気持ちで毎日、美味しく楽しく食べたいと思います。(佐伯)



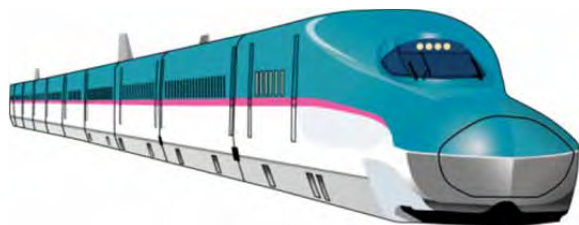
GOHOUBI ♪

[目次へ戻る](#)

～ 編集後記 ～



私にとっては初めての青森県での取材でした。東北新幹線のはやぶさ号に乗ると東京駅から約3時間半で新青森駅に到着します。車内放送でこの新幹線が新青森から新函館北斗まで約1時間で行くと言うことを聞き、40年ほど前に大阪から北海道に旅行に行ったことを思い出しました。



当時はまだ新幹線もなく大阪から半日以上列車に乗り、更に青森から函館まで、青函連絡船に約4時間乗ったうえで函館につきました。隔日の感があります。今ならその日のうちに着きますからね。日本全国に新幹線網ができ、どこにでも早く着くようになり便利になりましたが、逆に旅の情緒がなくなってきたなと思うのは私だけでしょうか。

(竹迫)

今回の農家さん訪問記で取材先が青森とわかった時、同僚がみんな「りんごでしょ?」と、口をそろえて聞いてきました。青森には他にも特産品がたくさんあるのですが、やはりりんごのイメージが強いようです。ちなみに私は今回2度目の青森訪問でしたが、前回(4年前の5月)同様にりんごの花の満開シーズンからはずれてしまいました、残念!

取材帰りに産直市場に寄りました。そこで取材したのと同じ「屏風山すいか」が高値で売られているのを見て、大きいなあ、おいしそうだなあと思っていると、近くに紫色のアスパラガスを発見! 初対面だった私は、値段を見て即購入。帰宅してからネットで調べてみると、珍しい品種でポリフェノールが豊富なのだそうです。食べ方は緑色のアスパラと同じですが、火を通すとポリフェノールが分解され緑色になってしまうので、生食がおススメと書いてありました。ちょうど同じ頃NHKの番組で「アスパラには『イライラ解消』の成分が含まれており、サプリメントも出来ている」と、アスパラを「身近なスーパーフード」としてその効能を紹介していました。なんとタイムリーと思って見ていると、イライラ解消効果を実感するには、1日50本のアスパラを食べなければならないとのこと・・・サプリの普及に期待します。



中身は緑色のアスパラと一緒に

他にも、アスパラには様々な効能があるそうです。今密着取材している岩農の生徒たちにも、栽培を勧めてみたくなりました。フレッシュショップに出したら即完売かもしれません。

(太田)

次月号の - 農力だよりは
8月31日(水)の発行予定です。
どうぞお楽しみに!!



[目次へ戻る](#)